

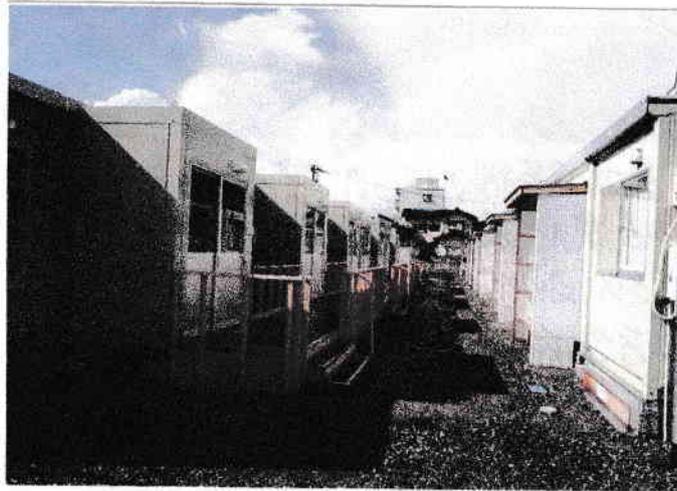
『紡ぐ』

仮設住宅での生活は大変ですが...

外に出ましょ！ 声かけあいましょ！

外に出て体を動かしましょ。

談話室や集会所に出でて声をかけあいましょ。一緒に何かやりましょ。



仮設住宅は建設中を含め204戸以上332戸に達する予定です。

「孤立死」関連死 5月20日、輪島市の仮設住宅で1人暮らしの女性が亡くしているのが見つかり「孤立死」と呼ばれるという報道がありました。昨、6月26日には能登半島地震の関連死の報道があり、穴水町でも6人が関連死と認定されたことがありました。穴水町の審査、認定は初めてで、この地震での死者数は26人(関連死6人含め)に達しました。

先頃、仮設住宅を訪ねて、「ここ、あんなに大変なところだった」と話して下さる入居者に会いました。入居して1ヶ月程の話では、知らない人が多い仮設住宅です。おとなりボウリングの大会借りたのでお茶会も声をかけあいましょ。一緒に何かをやりできるような環境を一日も早く作っていきましょ。**在宅被災者の方**も一人で悩まず、いろいろ存形で声をあげていってください。

連絡は「あした塾」や社会福祉協議会、ボウリング場までしてください。

復活!



(北陸中日新聞より転載)

穴水町出身のプロ野球選手、西武ライオンズの牧野翔矢選手は6月25日の日本一戦で先発出場し、チームを勝利に導いたとしてお立ち台に立ちました。牧野選手は2019年ドラフト5位で西武ライオンズに入団しました。昨年は戦力外通告を受け、その後育成契約に付していました。

二日、支配下選手契約を結んだばかり。戦力外、育成契約と苦しい状況の中、あきらめずに努力を続けてきたことがこの日の運びました。それらの今の状況に奮起する部分があります。穴水町出身の松井友哉選手とともに今後の活躍を期待したいものです。穴水町の励みにも...

災害ゴミ仮置場のくまのばいりまで延長してほしいです。

悲しくて、悔しくて、でも

ここから



変わる風景

解体



ここにきて、被災家屋の解体作業があらためて進んでいきます。

風景がどんどん変わっていきます。国道249号線の中居の下出交差点から珠洲川向かい果道沿い(下出のりけ)には25~6棟の住居があります。そのうちほとんど19棟が解体(予定も含む)されます。すでに解体され、その地帯は長らくの風景はほとんど見えません。解体中、写真を撮ったり、動画におさめたりしている人もいます。

自分の住み慣れた家が残ることは悲しくて、悔しいことです。残酷ですが、「でも、ここから前へ進む」しかないのですね。どう頑張っていくのか...



被災者に寄り添う

6月議会の一般質問で宮本浩司議員は「通告はしておりませんが、被災者に寄り添うとはどういうことですか? と答へてほしい」と質問しました。しばらく間

がありました。吉村光輝市長は「初人の立場に立つ。に尽きる。想像力が必要です」と答へました。

その通りだと思います。しかし、これは言葉だけでは簡単ではありません。法律や制度を市民の側に立つ。被災者の側に立つ。上手に活用していただきたいものです。(T)



向登半島地震ステーション

神奈川一級建築士 向登さんや大木研二君が制作したステーションが、向登さんや大木君が描いたステーションを展示されています。7月15日までの開催です。ご覧ください。

「くまのばいり」は「おは塾」のホームページで見ることができます。「おは塾 紋」で検索。